

精巣内精子採取法を受けられた直後の選択についての調査

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック ○島千怜 富谷友枝 田上真由美

森本義晴

I 緒言 IVF なんばクリニック（以下、当院）では日帰りの精巣精子採取法（以下、TESE）を施行している。したがって TESE で精子を確認できなかった方との関わりは、TESE 当日と翌日の消毒、そして 2 週間後の抜糸日となる。そのため医療者が関われる短期間に効率よく次の情報提供（養子縁組や非配偶者間人工授精（以下、DI）など）をする必要があると考えていた。そこで本研究は、TESE で精子を確認できなかった方が TESE 直後にどのような選択をしたのかを調査した。

II 方法 平成 16 年 2 月から平成 23 年 12 月までに当院で TESE を受けた方 191 名のうち TESE で精子を確認できなかった方のその後の選択について後方視的にカルテを調査した。倫理的配慮として、データ入力時に ID 化した上で報告等を行う旨を書面で周知しており、通院はこれに同意したものとみなしている。

III 結果 TESE を受けた方 191 名のうち

精子を確認できなかった方は 73 名

(38%) だった。精子を確認できなかった

73 名のうち 41 名 (56%) は次の情報提供

の記載は残されていなかった。しかし、

32 名 (44%) が精子を確認できなかった

直後に、医師または看護師より非配偶

者間人工授精の説明を受けていた。そし

て、DI の説明を受けてから DI を考える

方は 10 名 (31%) であった。

また、医師または看護師より DI の説明を受ける前から TESE で精子を確認できなかった場合に DI

を考えている方は 15 名 (21%) だった。夫婦間のどちらが提案されたかはカルテからは詳細不

明であった。年度別の比較では、精子を確認できなかった直後に医師または看護師より DI の説明

をすることは減少傾向にあった。しかし、TESE で精子を確認できなかった場合に DI を考えていた

方は増加傾向にあった。(図 1) ちなみに他院へのセカンドオピニオンを希望する方は 3 名だった。

IV 考察 TESE 後の精子を確認できなかった喪失感の中で医療者の知識不足により、次の選択肢を

急がせてしまう傾向にあった。しかし、講習会の参加やカウンセラーからのアドバイスもあり、医

療者側から直後に次の選択を提示することは減少したと考える。しかし、近年はインターネットの

普及により TESE 前より TESE で精子が確認できなかった場合の選択肢を先に調べていると考えた。

V 結論 TESE 後に精子が確認できず、遺伝学的上の子どもを授かることが出来ない喪失感の中で、

そして配偶者の喪失を目の当たりにする妻に次の決断を急ぐ必要はないと考えた。

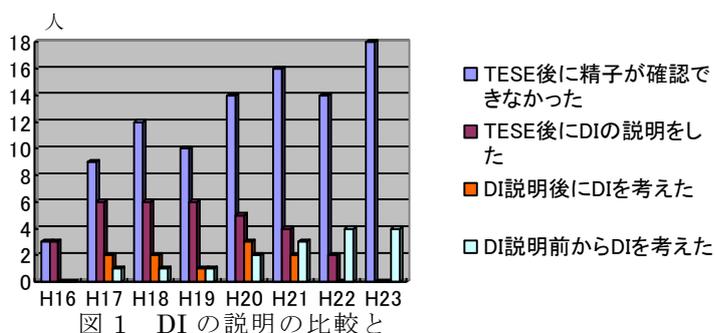


図 1 DI の説明の比較と

TESE 前後の DI を考えていたかの比較